大阪泉南地域のアスベスト国家賠償訴訟を勝たせる会

泉南勝たせる会ニュース

創刊号
2008.12.2
連絡先
泉南地域の石綿被害と市民の会
Tel.072-483-4981
Fax.072-484-0641

「泉南勝たせる会」 発足総会に 約１００名参加

杖を片手に涙の訴え

十一月十六日泉南市の樽井公民館において「大阪泉南地域のアスベスト国家賠償訴訟を勝たせる会」（略称「泉南国賠勝たせる会」）の発足総会が約百名が参加して行われました。

国は把握しながら 何もしなかった

最初に大阪じん肺アスベスト弁護団の芝原明夫団長の挨拶があり、原告団二十八名と遺族の方々からの自己紹介と訴えがありました。皆さんの今までの苦悩が言葉の端々にうかがえる発言にそれを聞いている参加者全員が、この発足総会の重大さを認識しました。

原告代表団の一人の女性からは「母がアスベスト工場で働いていて、自分もアルバイトで一ヶ月半ほど働いた。その後、母が発症して医者にかかってもアスベストとの因果関係が分からず何軒もの医者にかかってやっと原因がアスベストであることが判明した。でもその時には遅きに失し母を亡くし、自分も体が不調だ」と訴えていました。杖を片手に持ちながらの涙の訴えに、何としてもこの裁判が多くの国民のみなさんに知ってもらわなくてはなりません。

アスベスト被害は昭和十二年くらいから国は把握していたのに何の手だてもしなかった。そのために無念の思いで亡くなっていった方々を思うとき、何としても泉南地域アスベスト百年の歴史の重みを裁判ではっきりさせて国に認めさせ、アスベスト被害に苦しんでいる人たちの苦悩を少しでも軽減していかねばなりません。

三〇万人署名を二〇〇九年秋までに

二〇〇八年七月から証人尋問開始、二〇〇九年秋には結審、二〇一〇年三月には判決の予定

この運動をしっかり地に足をつけたものにするため、この会に代表委員三名と事務局長が推薦され満場一致で承認されました。代表委員の一人、西野恒次郎さんは「こんな理不尽な国のやり方に怒り心頭、署名を三十万人を集め、世論を高め裁判所でも国会にでも持って行こうと」と訴えました。八十歳を超えてもなお原告を支えて国民に訴えようとする西野さんの迫力に会場から大きな拍手が沸き起こりました。

その後弁護団の紹介がありました。その中には、あの有名な「西淀川公害訴訟」にかかわった四名の弁護士が含まれていることに大いに勇気づけられました。訴訟の意義、経過、今後の展望などの報告があり、「泉南勝たせる会」の活動と申し合わせ事項の提案、承認のあと、各界からの参加者の発言や励まし、意見交換がありました。

泉南アスベスト国賠訴訟は、二〇〇六年五月に提訴、原告数二八名（被災者数二六名）、原告は、元労働者・自営業者・周辺住民・家族など地域ぐるみの被害で、石綿肺・肺がん・中皮腫・びまん性胸膜肥厚などの患者。被告は「国」（アスベスト規制権限の不行使の責任を問う）。

判決までの審理予定は二〇〇八年七月から証人尋問開始、二〇〇九年秋には結審、二〇一〇年三月には判決の予定。この裁判は初めて本格的な国の責任を問う集団訴訟であり、百年の石綿紡織業の歴史と最も早く多数の被害者を出した泉南地域のこの動きが全国の他の被害者の注目するところです。

泉南アスベスト国賠訴訟

公正判決を求める
30万署名スタート集会

2009年 1月24日(土)午後2時から

あいぴあ泉南1階ホール

(樽井駅から南東へ市役所前)

泉南アスベスト国賠訴訟もいよいよ大詰め。１００年の歴史をもつ泉南アスベストの被害。「知ってた、できた、しかし何もしなかった」国の責任を認めさせる全国の先陣を切るこの裁判で、公正な判決を求める３０万署名ー国民運動のスタートです。

大阪泉南地域のアスベスト国家賠償訴訟を勝たせる会

連絡先 泉南地域の石綿被害と市民の会

〒590-0515 泉南市信達六尾595 電話 072-483-4981 FAX. 072-484-0641

石綿紡織業一〇〇年の歴史で、もっとも早く被害が発生した地域この裁判は国の責任の原点を問う裁判

「泉南国賠勝たせる会」発足総会に約一〇〇名が参加した。